

乳の学術連合の窓

特集1 食文化という視点から、乳の“現在地”を見る
～乳文化の日本化への道～

特集2 睡眠は食で改善できるか？ “よい眠り”と牛乳乳製品の関係

牛乳乳製品に関する食生活動向調査 2013

牛乳乳製品に関する食生活動向調査から



2014.SPRING



- 3... **[特集1] 食文化という視点から、乳の“現在地”を見る～乳文化の日本化への道～**
和仁 皓明 氏（西日本食文化研究会主宰）
- 5... **[特集2] 睡眠は食で改善できるか？ “よい眠り”と牛乳乳製品の関係**
「メディアミルクセミナー」白川 修一郎 氏（江戸川大学睡眠研究所客員教授）
- 6... **食品スーパーの新たな売り場づくりへ
1か月間の店舗実験を実施**
- 7... **全国各地でブロック会議を開催**
- 7... **「全改協加盟店のアピール」ステッカー**
- 8... **牛乳乳製品に関する食生活動向調査から**
- 10... **平成26年「牛乳の日・牛乳月間」に向けた取り組み**
- 11... **生乳生産基盤強化が急務
業界内の共通認識を高めるセミナーを開催**
酪農乳業セミナー 開催日：平成26年2月26日 開催場所：大手町サンケイプラザ
- 12... **平成26年度事業計画及び収支予算について**
- 16... **Jミルクの活動：12～2月の主な活動報告**
- 18... **平成26年度学術研究課題及び研究者が決定**
大学、研究機関等に広く公募を行っていた学術研究の内容と研究者を選考
- 19... **今後のスケジュール・編集後記**

Contents



乳の学術連合の会員の先生方に、ご登場いただくコーナーです。

食文化という視点から、 乳の“現在地”を見る

～乳文化の日本化への道～

和仁 皓明 氏 (西日本食文化研究会主宰)

特集 1



和仁 皓明 氏
西日本食文化研究会主宰

乳の学術連合「乳の社会文化ネットワーク」代表幹事の和仁皓明氏は、食文化の形成過程に目を向けながら、牛乳乳製品の日本における位置付けや、酪農乳業の今後について提言を続けている。乳の食文化のさらなる普及と定着に向けた、議論と情報発信のあり方を聞いた。

「異文化」を日本化してきた和食の歴史

—まず、先生のご研究の経歴と、食文化というテーマお話しください。

和仁：1955年に大学を卒業後、雪印乳業株式会社に入社その後アメリカ留学を経て、帰国してからは冷凍食品事業の立ち上げに関わりました。乳を使うピザやグラタン、コロッケなどの冷凍食品開発を進める過程で、日本人が大切にしている食は何かということを考えるようになり、日本の食文化をもう一度学ぶ必要性を感じました。そこで、日本料理の研究者を招いて、江戸時代の料理集の原典を読む会を立ち上げたのです。僕が知りたかったのは、和食の中に「異文化」がどう取り込まれていくのかという点です。

例えばカステラやボーロは、室町後期にポルトガル人が持ち込んだ料理を日本風にアレンジしたものです。豆腐やてんぷら、かまぼこは、平安から鎌倉期に中国経由で入ってきた料理が定着したものです。一方で、江戸期のレシピ集には載っているが、すでに消えてしまった料理もある。同じ異文化の食品でも、日本の食に受け入れられるでは、牛乳やバターやチーズはこの先どうなっていくの

ものと、そうでないものがあるのです。

では、牛乳やバターやチーズはこの先どうなっていくのか。これらが将来の日本の食において確かな地位を占めるためには、100年後まで続くようなレールを今のうちに敷いておかなければならないと感じました。僕が「乳文化の日本化」という問題意識を明確に持ち始めたのはこの頃からですね。

それから定年退職までは、開発企画室長を務めた他、健康生活研究所の立ち上げにも携わりました。

食文化の成熟の先にある、深化と拡大

— 1992年には東亜大学大学院総合学術研究科の教授に就任され、2006年まで務められました。

和仁：大学院では主に、食文化特論(食文化史、比較食文化)と食の評価特論を担当しました。時系列的な評価(食文化史)と平面的な同時比較(比較食文化)という両面があって初めて、文化現象を客観的に見ることが出来ます。

食という文化現象には、平面的な拡大と垂直的な深化という方向性があります。

例えば、現代日本人のタンパク質摂取量は成人男性で1日75グラム程度。これを植物性と動物性で取り分けており、後者には魚、肉、乳、卵が含まれます。肉の摂取が増えれば他が減るという具合に、限られた量の中で取り合いをしていて、時代によってその内訳は変わる。成熟状態ではこうした垂直的な深化が見られます。

平面的な拡大とは、まさに人口と関連する問題で、日本が飽和したら新たな市場を求めて海外へ出ていくということ。

その際には、日本人に受けた味が外国でも受け入れられるかという比較食文化的な観点が求められます。

牛乳乳製品についても、日本国内での位置付けの変容という問題と、外へ出て行くためには何を勉強すべきかという問題があるのです。乳の社会文化ネットワークの設立宣言にもあるように、乳文化の形成過程をトレースし、どこへ向かっていくのかを見極めることが必要です。これは、乳業界が共有している問題意識でもあると思います。

乳を日本人の「心のふるさと」に

— 乳を日本人の食文化の歴史の中で捉えることは、まさに食文化的な視点でマーケティングを考えるということですね。先生は乳の食文化の現状と今後をどのように見ておられますか。

和仁：産業の育成には、国民のために何ができるかという視点があります。酪農乳業に関しては、国も乳業各社もこれまで、国民の体位向上を掲げてきました。現在でも、骨粗鬆症やインフルエンザの予防といった機能性の強調は、一つの方向性として必要でしょう。

しかしその一方で、おいしい料理づくりとか、食卓の中でどう位置付けられるかという視点も、より重要になっ

ていると思います。

言い換えれば、機能性を理解してもらって「頭で食べる」というアプローチに対し、牛乳乳製品を「心のふるさと」として捉えてもらおうという考え方です。乳は日本の食においてすでに一定の地位を確保していますが、これがノスタルジーを伴うような「心のふるさと」にまで至ったとき、「乳文化の日本化」が定着したと言えるのです。

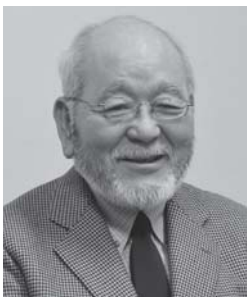
乳文化の成熟と「乳和食」の可能性

和仁：その意味で僕は、Jミルクが提案している「乳和食」というコンセプトはすごく斬新だと思っています。例えば、茶わん蒸しや厚焼き玉子は今や「和食」の定番メニューですが、日本人が卵を食べ始めたのは、室町期にポルトガル人が卵料理を紹介して以降のこと。江戸後期には庶民にも普及し、「卵百珍」のようなレシピ集が編纂されています。会席料理に卵が入ってくるのはさらに後のことで、料亭などで卵料理が出るようになるのは大正期です。卵食文化はこうして時間をかけて成熟し、日本化してきました。

日本における牛乳乳製品の歴史は卵に比べれば浅いですが、乳の消費量推移などを見ると、文化としての成熟は始まっています。日本の伝統食に乳を取り入れるという発想は、こうした動きを後押しするものだと思います。

私たち乳の社会文化ネットワークとしても、今後さらに研究と議論を深め、乳の食文化の深化や拡大につながる情報を発信していきたいと考えています。

— 市場の成熟を文化的な成熟に転換しなければ、マーケティングも企業経営も安定しません。日本の酪農乳業が100年後も生き残るためには、ビジョンと、それに基づいてマーケティングや施策を組み立てていく視点が必要です。そのための乳文化の議論が、乳の社会文化ネットワークを中心に広がり、研究者だけでなく業界関係者も参加するようになることを期待します。本日はありがとうございました。



和仁 皓明 氏

(西日本食文化研究会主宰・乳の社会文化ネットワーク代表幹事)

1931年、北海道生まれ。東北大学農学部卒。米国メリーランド大学大学院修士課程卒(農学博士)。1955年、雪印乳業株式会社に入社。品質管理研究者、開発企画室長などを経て退職。1992年より2006年3月まで東亜大学大学院総合学術研究科教授。

睡眠は食で改善できるか？ “よい眠り”と牛乳乳製品の関係



[特集2]

開催日：平成26年3月10日 開催場所：大手町サンケイプラザ

Jミルクは第35回メディアミルクセミナーを3月10日に開催した。今回は、高血圧や糖尿病などさまざまな健康問題との関わりが指摘されている「睡眠」を扱った。食事、とりわけ牛乳乳製品が睡眠の質的改善につながる可能性について、脳機能と睡眠研究の第一人者として知られる白川修一郎氏が講演した。

睡眠は大脳皮質を効率的にクールダウンする他、筋肉や運動系の休息にも必要である。また、覚醒中に損傷した細胞や心身のシステムを修復し、機能を回復する働きもある。人間にとっては、健康維持と抗老化に最大の役割を持つ生命現象の一つである。

睡眠は量的に不足しても、質的に悪化しても、睡眠負債が蓄積し、健康被害につながる事がわかっている。

睡眠不足や睡眠障害による影響としては、循環器の機能低下(高血圧、脳卒中など)、免疫機能低下・異常(ガン、アレルギー性疾患発症リスク増大など)、代謝機能異常(肥満、糖尿病発症リスク増大など)がある。

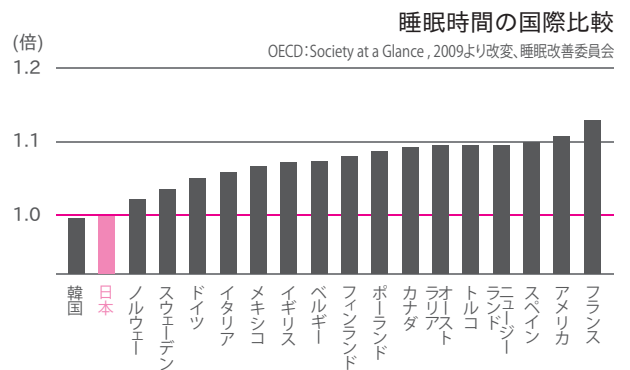
例えば高血圧の場合、寝つきが良くない人や睡眠の維持が困難な人は、適切な睡眠を取る人に比べて発症リスクが2倍近くになることが明らかになっている。II型糖尿病の発症リスクは、入眠困難の人で3倍近く、睡眠維持困難の人は2.2倍に上る。

脳機能にも影響があり、集中力や注意維持の困難(事故のリスク)、記憶・学習能力、感情制御機能の低下の他、アルツハイマー型認知症発症リスクの増大も知られている。また、うつ症状や自殺率にも密接な相関がある。

100万人以上のサンプルで睡眠時間と健康リスクの関連を見ると、健康に被害のない睡眠時間は6時間30分～8時間未満となる。睡眠は短すぎても長すぎても健康リスクは高まるが、



白川 修一郎 氏
日本睡眠改善協議会常務理事
医学博士。1973年、東邦大学医学部大学院修了。国立精神・神経センター精神保健研究所老人精神保健研究室長などを経て、2012年より江戸川大学睡眠研究所客員教授現職。日本睡眠学会理事。



現代の日本人が注意すべきは、睡眠不足と睡眠負債の蓄積である。平日の寝不足で生じた「眠りの借金」を、休日に長く眠ることで「返済」するような生活リズムの人が増えている。

睡眠は本質的に食と密接に関係しており、栄養バランスの良い食事を規則正しく摂ることは、睡眠の改善につながる。

眠りの質を高める効果のある栄養素としては、トリプトファンやメラトニン、グリシン、テアニンなどが知られている。

牛乳はトリプトファンを多く含む食品の一つで、飲用頻度の高い人ほど朝型(早寝早起き)で、頻度が低くなると熟眠型が減り、不眠型の人が増えることが実験から明らかになっている。トリプトファンとビタミンB₆の摂取は、睡眠の質的改善に作用するメラトニンの分泌を促す。牛乳乳製品を毎朝摂取することで、夜に十分な量のメラトニンが供給され、睡眠が改善するというメカニズムが考えられる。

また、睡眠中に分泌される成長ホルモンを有効に活用するためには、夕食で良質なタンパク質を摂取することが重要。睡眠の機能を高めるという意味では、牛乳乳製品を朝だけでなく夕食でも摂ることをおすすめしたい。

国内外の最新の研究データから、牛乳乳製品が睡眠の改善に関係している可能性が見えてきた。本格的な研究はまだ始まったばかりで、今後より明確なエビデンスが出てくるものと考えている。

食品スーパーの新たな売り場づくりへ 1か月間の店舗実験を実施



地域連携による食品売り場を活用した新しい食育活動

食品スーパーの売り場を食育の情報発信やコミュニケーションの場と位置付け、牛乳乳製品の価値向上や売り場活性化を図る実験が、都内の店舗で行われた。プロジェクトの概要と、地域の連携による新たな売り場づくりの可能性を紹介する。

「野菜と牛乳 Think the meal! ～健康のために食を考える～」と題した今回の店舗実験は、Jミルク、学習院マネジメント・スクール、公益社団法人日本栄養士会の企画、独立行政法人農畜産業振興機構の後援により、2月17日～3月16日にわたって行われた。

実施店舗は、サミットストア成城店(東京・世田谷区)と府中西原店(東京・府中市)。食品スーパー、研究機関、管理栄養士、地域の学校や病院、行政の協力・連携により実施する、国内初の取り組みとなった。

主なねらいは、「望ましい食事のあり方」を提案することによる栄養改善と、牛乳と野菜を軸にしたクロスマーチャンダイジングによる売り場の活性化。スーパー利用客のうち、子どもの健やかな成長を願う母親層と、健康の維持管理に関心を持つシニア層をターゲットにした。



店舗内に展開した顔写真入りPOP

店舗での情報発信の核になるのは、「健康・食育ステーション」と題したスタンド。病院の管理栄養士や学校の栄養教諭、保健所などの監修で、食育や学校給食、疾病予防などの情報を発信。この他、旬野菜(栄養、効能、調理方法)、牛乳とコーヒー・紅茶の知識(効果、上手な淹れ方)なども提供した。

青果・惣菜売り場でのクロスマーチャンダイジングでは、栄養士や店舗スタッフの顔写真入りで、牛乳やヨーグルト、旬野菜などのおすすめ食材を紹介する黒板型のPOPを展開。

また「今週の食育レシピ」として、子育て期向けには野菜たっぷりのミルクシチューや新じゃがのミルクグラタン、シニア期向けには、減塩けんちん汁や減塩ミルクそばといった乳和食のレシピを紹介した。

牛乳売場では、牛乳類の種別を解説するバナーを設置し、利用客が商品を選ぶ際に参考となる情報も提供。店舗の一角に設けた「おためし下さいコーナー」では、牛乳・乳飲料やバター、マーガリンなどの試飲・試食を通じて、味と種類の違いへの理解を促進した。

コーヒー・紅茶売場でも、牛乳とコーヒー、紅茶の知識や、上手な淹れ方、おすすめレシピなどを提示。また成城店では、栄養士による講習会、ミルクティやカフェオレの楽しみ方の提案、親子で参加できる調理体験教室などのイベントも定期開催した。

今後は、学習院大学経済学部の上田隆穂教授らを中心に収集したデータを分析し、業界関係者や報道機関に向けて発信する予定になっている。



全国各地でブロック会議を開催

Jミルクは平成25年度ブロック会議を、「Jミルク事業概要の周知」、「事業の成果と課題についての説明」、「地域一体となる事業の取り組みについての説明」、「情報の共有化及び地域での意見収集」を目的として、東京会場を皮切りに全国7ブロック(札幌、仙台、東京、名古屋、京都、岡山、福岡)で開催した。

東京会場で浅野会長は、「Jミルクでは、これまで以上に酪農乳業界の発展に貢献できるよう、平成23年度から組織と事業の改革・検討に取り組み、平成24年度からは改革方向を具体的な実践に移すために、平成26年度までの3カ年計画を実践してきた。来年度は、3カ年計画の最終年度にあたるため、事業効果をさらに確かなものにすることに重点を置いて、事業の選択と集中を進める。」と述べた。

さらに平成26年度事業のうち、6月1日の「牛乳の日」、6月の「牛乳月間」について「この取り組みの社会的認知がさらに高まり、業界関係者による生活者とのコミュニケーション活動が一層促進されるように、Jミルクでは統一的なメディア広報や各種セミナーの開催に加え、昨年実施し大きな成果が得られた小学生向けの食育施策も実施する。業界関係者にもそれぞれの活動を積極的に行ってもらうとともに、Jミルクが提供する共通啓発資材などの活用を通じて、業界全体が連携した取り組みとなるように協力をお願いしたい。」と述べた。

協議・報告

- 1.平成26年度のJミルク事業について
- 2.平成26年度「牛乳の日・牛乳月間」の取り組み減塩運動支援「乳和食」の取り組みのご案内
- 3.生乳検査精度管理認証制度の取り組みと課題について

「全改協加盟店のアピール」ステッカー

一般社団法人全国牛乳流通改善協会(橋本正敏会長)は、牛乳販売店が、全改協の加盟店であることを地域、お客様に広くアピールするためのステッカーを作成。各都道府県の牛乳流通改善協会を通じて3月初頭に全国すべての全改協の加盟店(約6,000店舗)に配布を行った。



全改協加盟店ステッカー

牛乳乳製品に関する食生活動向調査から



調査報告URL ▶ <http://www.j-milk.jp/tool/chousa/doukou/beroh000000g30q.html>

Jミルクは、全国の生活者を対象とする「牛乳乳製品に関する食生活動向調査2013」の結果を1月27日に公表した。調査結果から得られた主な知見を紹介する。

生活者1万人を対象に全国調査、牛乳価格への意識などが明らかに

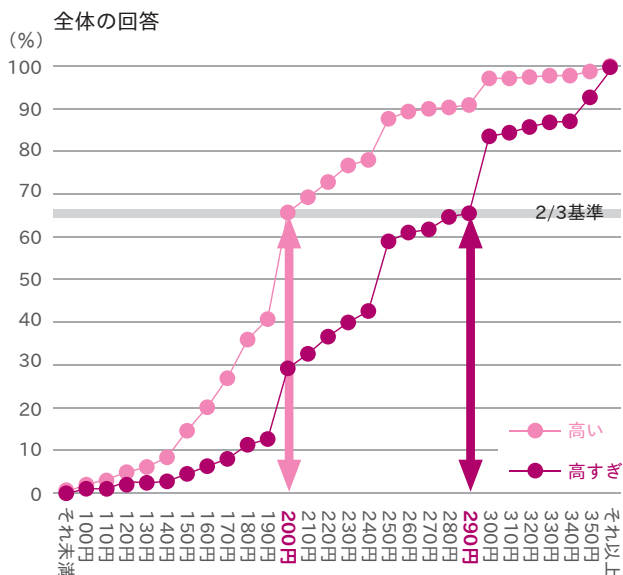
「牛乳乳製品に関する食生活動向調査」は、牛乳乳製品の価値向上を推進するための基本情報を得ることや、普及関連事業の効果検証の基礎とすることを目的に、Jミルクが2012年度から行っているもの。

第2回目となる2013年度調査は、全国の15歳～60歳代の男女1万人と、3～18歳の子どもの持つ母親600人を対象に実施。牛乳類の飲用頻度や購入状況、価格に対する意識、牛乳に関する情報接触の特徴などを調べた。

「品質が良ければ買ってよい」と感じる価格帯は1リットルパック200～290円前後

多くの生活者（全体の3分の2）が「高いと感じ始める価格」は200円程度、「高すぎるので買わなくなる価格」は290円程度となる。これにより、200～290円の間は、品質などが「良いものであれば買ってよいと感じている価格」と解釈される。

1リットルパックの牛乳類について伺います、あなたがそれを買うときに、「高い」と感じはじめる価格をお知らせください。●
1リットルパックの牛乳類について伺います、あなたがそれを買うときに、いくら品質が良くても高すぎるので買わなくなる価格をお知らせください。●



酪農家への共感・国産優先意識で上限価格が10～25円前後高く

牛乳の上限受容価格に特に影響を与えるのは、「酪農家への共感意識」や「国産優先意識」で、前者は10～15円程度、後者は25円程度、上限を引き上げている。

この結果から、酪農家への共感や牛乳の国産優先意識を向上させる取り組みが、牛乳の高価格に対する受容性を高める可能性が強い。

さらに、牛乳の「良い思い出」や「美味しさ」、「栄養健康機能の認知状況」も上限受容価格に影響を与える要因となっている。

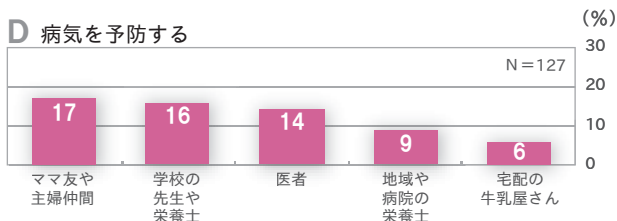
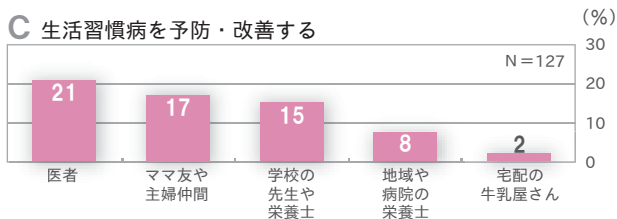
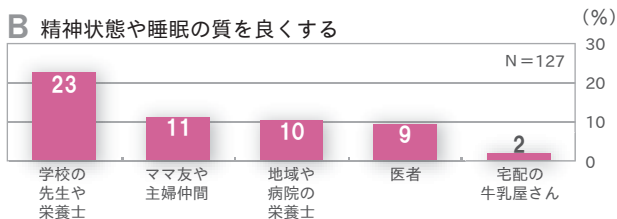
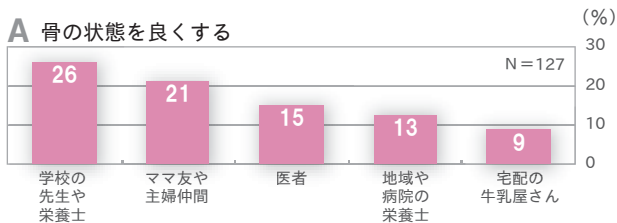
酪農家への共感が高まった理由を聞いたところ（母親のみ）、「酪農の大変さを認識した」が44%、次いで「テレビ番組など」「震災などの困難や事故」が14%ずつとなった。国産優先意識が高まった理由でも、「安心感・信頼感」が46%でトップ、「酪農家への応援意識」が3番目（10%）に入っていることから、酪農家の仕事ぶりや、国内の酪農が置かれている現状を生活者に伝えて共感を得ることが、牛乳価格への理解にもつながると言える。

母親への影響力を持つ先生・栄養士 学校を通じた働きかけが効果的

「牛乳の栄養健康機能」の中で下記A～D項目への認知が高まった母親に対して、「影響を与えた人（インフルエンサー）は誰か」を調査した。その結果「生活習慣病の予防・改善効果」では「医者」、それ以外の効果は「学校の先生や栄養士」による影響が特に強い。また、4つの効果すべてで「ママ友や主婦仲間」からも影響を受けている。

「学校の先生や栄養士」から影響を受けた母親は、学校が配布するプリント（給食便り、保健便りなど）や、給食参観や試食会などの学校行事を通じて認知を高めている。「学校の先生や栄養士」の役割を重視し、学校を通じた母親への働きかけを強化することが効果的と言える。

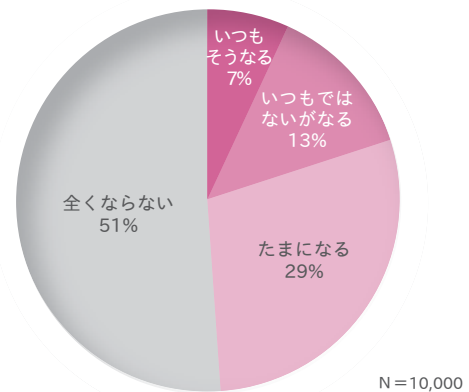
母親の牛乳の栄養健康機能認知が高まっている理由
最近、あなたの牛乳に関する、「骨の状態を良くする」「精神状態や睡眠の質を良くする」「生活習慣病を予防・改善する」「病気を予防する」というイメージや認識が、以前に比べて強まったのは、だれから聞いたからですか。



約半数が「乳糖不耐」の症状を自覚

今回の調査を通じて、生活者一般で「乳糖不耐」の自覚を持つ人は全体の約半数（49%）であることがわかった。それらの層のうち飲用量の目安としては、牛乳コップ2杯を飲むと約9割（コップ1杯では約6割）の人が症状を自覚すると答えている。

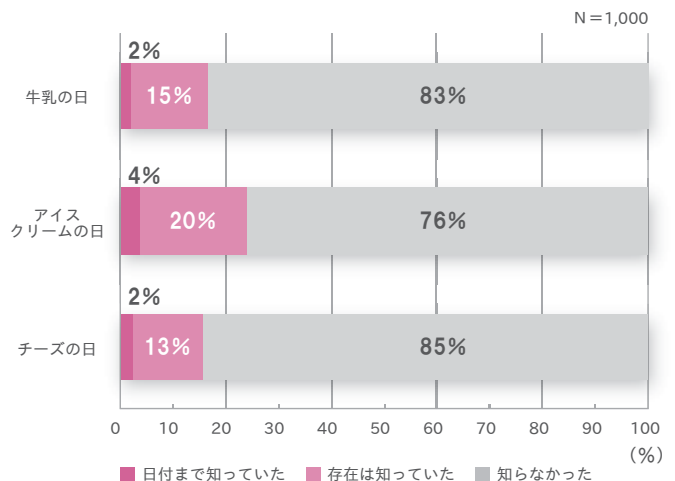
あなたご自身は、牛乳を飲んでお腹がゆるくなったり、ゴロゴロしたり、張ったりすることがどれくらいありますか。



「牛乳の日」の認知率は約17%に

生活者一般の「牛乳の日」認知率は約17%で、「アイスクリームの日（24%）」には劣るが「チーズの日（15%）」とはほぼ同程度という結果だった。

あなたご自身は、この調査以前に、下記の「牛乳の日」「アイスクリームの日」「チーズの日」について、どれくらいご存知でしたか。



平成26年「牛乳の日・牛乳月間」 に向けた取り組み



平成26年度の「牛乳の日・牛乳月間」については、酪農乳業が推進する消費者コミュニケーション活動の起点として位置付け、Jミルクが「旗振り役」となり、業界の共通コンセプト、統一的な啓発資材及びメディア広報対策等を通じて関係者の取り組みを支援するとともに、各種セミナー及び学校現場での認知を高めるための小学生向け施策などを実施する。

共通コンセプト【3つの目標】

- (1) 「牛乳の日」「牛乳月間」の認知・理解をさらに高める。
(25年度認知率17%)
- (2) 「食育月間」に結びつけて、特に次の牛乳乳製品の価値情報を積極的に発信する。
 - ① 「乳和食」による減塩効果
 - ② 高齢者の栄養と牛乳
 - ③ 乳糖不耐への上手な対応方法
- (3) 牛乳乳製品の価値向上を更に促進するため、酪農現場への共感意識を高める情報発信を推進する。

会員団体及び乳業者等における推進活動

- 会員団体及び乳業者等にあつては、「牛乳の日」の認知向上と結びつけて、それぞれに次のような活動の推進及びそのための支援をお願いしたい。
- ① 酪農体験活動、工場見学、イベントなどの生活者向け各種理解醸成活動
 - ② 統一ポスター・リーフレットの活用
 - ③ 共通ロゴの利用と掲出
 - ④ 「牛乳の日」の認知向上を結びつけた各種販売促進活動
 - ⑤ その他

具体的な取り組み

業界関係者の取り組みへの支援

- ① ポスター、チラシ等の共通ツールを制作し電子データで提供するとともに、会員及び関係者の要望を踏まえ、共通ツール利用の印刷コスト等が低減されるよう取り組む。
- ② 「牛乳の日」「牛乳月間」の取り組みをメディアで多く露出させる観点から、「食育月間」と結びつけた牛乳食育特別活動が複数の小学校等で実施されるよう働きかけ支援する。
- ③ 酪農乳業界の取り組みを一元的に情報収集しメディアへ発信するメディア広報対策を積極的に推進する。

Jミルクの取り組み

- ① 乳の学術連合「牛乳の日」記念フォーラム(5月31日)東京丸ビルホール
- ② 子どもやその家族への「牛乳の日」認知を高めるため、25年度に継続して、小学生向け食育施策(コンクール)を実施する。なお、25年度コンクール最優秀作品を用いたキャラクターについては、提供する食育教材などで活用する。
- ③ メディアミルクセミナーの開催(6月中)
- ④ 酪農乳業食育推進研修会の開催(6月中)
- ⑤ 報道用基礎資料の制作・配布(5~6月)

取り組みスケジュール

6月1日は
牛乳の日
WORLD MILK DAY
6月は牛乳月間

2月中旬～

会員等に活動方針・活動内容を周知し、活動計画の策定等を依頼

3月中旬～

関係団体等に対する期間中の具体的な活動内容の周知・情報収集を開始

4月上旬～

ポスター及びリーフレットなどの提供(データ提供を含む)開始

5月上旬～

統一的なメディア広報活動を開始

生乳生産基盤強化が急務 業界内の共通認識を高めるセミナーを開催



開催日：平成26年2月26日 開催場所：大手町サンケイプラザ

業界関係者に対して、国の酪農乳業への政策並びにJミルクの取り組み内容を紹介し、有益な情報として活用してもらう第2回酪農乳業セミナーを開催。冒頭のあいさつで前田専務理事は「生乳生産基盤強化が急務。生産現場の方々に、国によるさまざまな政策をしっかりと伝えて、実行に移していくことが重要」と述べた。

第2回の酪農乳業セミナーでは、農水省の渡辺祐一郎乳製品調整官が「国の酪農乳業への政策とその方向性」と題し講演。続いてJミルクより「平成26年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと今後の課題の詳細内容」、「Jミルク調査分析結果：牛乳乳製品に関する食生活動向調査2013」の講演を行った。

以下、渡辺氏の講演要旨を紹介する。

牛乳小売価格値上げ後の消費にPBが影響

昨年10月の牛乳小売価格の値上げが消費にもたらした影響について、「過去のトレンドに比べて減少は小さいが、単純に影響がなかったかは判断が難しい」とした上で、「小売価格はNBが主体で上がっている反面、PBで値段が据え置かれている状況がある。PBの動向による影響が大きい可能性もある」との見解を述べた。

また、「平成20年の値上げでは、価格の安い成分調整牛乳などに消費がシフトした。今回も加工乳・成分調整牛乳の減少率が10月以降やや緩やかになっていることから、今後の消費動向にも注視したい」と述べた。



セミナー風景

講演Ⅰ「国の酪農乳業への政策とその方向性について」
農林水産省生産局畜産部 牛乳乳製品課乳製品調整官 渡辺 裕一郎氏

講演Ⅱ「平成26年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと今後の課題の詳細内容」
Jミルク 企画情報グループ 参事 本田 航

講演Ⅲ Jミルク調査分析結果
「牛乳乳製品に関する食生活動向調査2013」
Jミルク 普及グループ 部長 木村 敬

加工原料乳補給金の交付対象にチーズ向け生乳を追加

昨年12月、平成26年度 畜産物価格及び、関連対策が決定した。ひとつのトピックとしては、「チーズ向けの生乳」を補給金の制度対象にしたことが挙げられる。

これについて渡辺氏は「今までチーズに関して様々な対策をとってきたが、平成元年に比べてチーズ向け生乳量は約2倍に増えており、安定的なチーズ振興の道筋、財源の裏打ちができたのではないかと」の認識を示した。

また、特に生乳生産基盤が弱体化している都府県への対策については、「酪農生産基盤維持緊急支援事業」における後継者対策として、①初妊牛を導入する場合、1頭当たり5万円の助成、②性別別受精卵移植にも補助率2分の1、上限10万円まで助成。卵が着床しなかった場合、10万円の範囲内で複数回できるなどの補助がある。さらに「都府県酪農経営国産粗飼料利用体制強化事業」では、経産牛1頭当たり、1アール以上の飼料面積を持っていて、自給飼料を作っている場合、1頭当たり6,100円の奨励金が交付されると説明した。

平成26年度事業計画及び 収支予算の概要



詳細は <http://www.j-milk.jp/about/index.html>

平成26年度の事業計画

1.平成26年度事業計画の基本的な考え方

(1) 喫緊の課題である酪農生産基盤の強化について、業界が連携した一体的な取り組みを推進できるようにするとともに、需給見通しなどの流通関連情報の分かり易く迅速な提供を行う。また、酪肉近代化計画の策定に際して、わが国酪農乳業の総合力を強化する観点から、積極的な意見反映に努める。

(2) 「乳の学術連合」における研究成果を活かした情報開発を積極的に進めるとともに、セミナー等を通じて、ミルクインフルエンサー等に対する戦略的な情報提供に注力する。また、会員団体が実施する消費者コミュニケーション活動との連携並びにメディア広報対策及びSNSを活用した情報ネットワーク活動を強化する。

(3) 学術連合などの外部連携組織は、新たな牛乳乳製品の価値開発、発信情報の社会的信頼性の確保などを図るため、活動の充実を図るとともに、日本栄養士会等の外部組織との連携を強化する。

(4) 実施する事業の選択と集中を図るとともに、プロパー職員と出向職員の役割の明確化、職員の能力開発、優れた人材の育成・確保を通じて、業務推進体制を強化する。

2.平成26年度事業の主な内容

(1) 生乳及び牛乳乳製品流通関連事業

【主な事業の内容】

① 継続して行う基本事業

- ア．生乳及び牛乳乳製品の需給見通し等、流通関連情報の提供
- イ．生乳中の動薬等の残留に関する定期的検査など、ポジティブリスト制度への対応
- ウ．生乳検査の精度向上を目指す認証制度の運営
- エ．酪農乳業における共通課題の検討及び共同の取り組みの推進
- オ．牛乳乳製品の流通等の調査及び情報の収集

② 改善・強化のポイント

- ア．適正な需給調整や生乳取引の円滑化に資するよう、従来に増してきめの細かな情報を分かり易い形で提供。
- イ．共通課題の検討及び共同の取り組みについては、特に、「酪農生産基盤強化」対策が具体的かつ実効性を持って促進されるように、会員団体及び政府と連携して推進。
- ウ．各種調査結果やデータベース、政府等の既存調査などの情報を業界関係者及び食品流通業や乳製品ユーザーが有効に活用できるように一層の工夫を図るとともに、牛乳類及び乳製品に係るマーケット調査で得られた新しい知見を共有化するための勉強会・セミナーを開催。

(2) 牛乳乳製品普及関連事業

【主な事業の内容】

① 継続して行う基本事業

- ア．牛乳乳製品の価値向上に繋がる情報を開発し、これを業界関係者及びミルクインフルエンサー並びにメディアに提供。
- イ．学術連合の組織運営の円滑化及び研究推進体制の強化を支援。
- ウ．乳の栄養健康機能については、骨強化・骨粗鬆症予防機能、リラックス安眠機能、生活習慣病予防機能、免疫力強化機能に重点。
- エ．医師、栄養士、学校関係者等のミルクインフルエンサーをコミュニケーションの基本ターゲットとするとともに、日本栄養士会、全国学校栄養士協議会などの外部組織と連携。
- オ．「牛乳乳製品に関する食生活動向調査」等の調査及び情報の収集

② 改善・強化のポイント

- ア．ビッグママへの理解促進・価値訴求を強める観点から、栄養士、栄養教諭、学校栄養職員、養護教諭、幼稚園教諭・保育士への働きかけを強化

- イ．日本食への牛乳乳製品の利用促進を図るとともに、乳幼児・青年・高齢者への取り組みを強化する。
- ウ．酪農乳業への共感性(誠実さ・親しみ・感謝)強化が、牛乳乳製品の価値向上に繋がることを踏まえ、食育活動を社会貢献活動のひとつと位置付け、会員団体及び乳業者等の取り組みとの連携を強化。
- エ．日本栄養士会が推進する「栄養ケアステーション」構想との連携を強化するとともに、小売流通・フードサービス業とも連携。
- オ．学術連合における研究成果の普及・活用及び領域横断的な研究の促進を図るとともに、新しい価値創造に繋がる優れた先行研究を創出する観点からの支援を強化。

(3) 広報関連事業

【主な事業の内容】

- ① 継続して行う基本事業
 - ア．WEBサイト(ホームページ等)による情報発信活動。
 - イ．公式Facebookを通じたインフルエンサーへの情報発信活動。
 - ウ．Jミルク事業全般にわたるメディア向け広報活動。
 - エ．Jミルク事業全般にわたる会員向け広報活動。
- ② 改善・強化のポイント
 - ア．WEBサイトの運営をユーザーがさらに利用し易いよう改善。
 - イ．一般メディア、栄養・医療・生活関連メディアへの広報活動については、学術連合との連携を強化。
 - ウ．会員の事業理解を深めるため、業界メディアへの広報活動を強化。
 - エ．牛乳乳製品に対するネガティブ情報及び誤認情報への監視を強化。

(4) 生乳需要基盤強化対策特別事業

【主な事業内容】

- ① 「牛乳の日」「牛乳月間」については、酪農乳業が推進する消費者コミュニケーション活動の起点として位置付け、業界全体で一体感を醸成する共通のコンセプト、統一的な啓発資材及びメディア広報対策等を通じて業界関係者の取り組みを支援するとともに、各種セミナー及び学校現場での認知を高めるための小学生向け施策などを実施する。
- ② 小売流通業者・外食関係者及びメディア等に対して、国産牛乳乳製品の価値訴求、新たな利用や販売方法の啓発を行うため、店舗を活用した販売促進・食育活動のモデル的提案などを実施。
- ③ 「健康日本21」で政府が推進する「日本人の健康寿命の延

伸」を図る観点から、高血圧の予防を推進するため、日本栄養士会、日本高血圧協会と連携して「乳和食」を活用した減塩支援運動を引き続き促進。

(5) 災害等危機管理対策事業

【主な事業の内容】

- ① 大規模な災害や事故等が発生した緊急時における業界の共同した対応を推進するため、「酪農乳業危機管理対策連絡会」を基本とした体制を継続して運営するとともに、危機管理のための情報共有化について検討を推進。
- ② 放射性物質除染後に当該地域で栽培される飼料作物の安全性を確認するために必要な放射性物質検査などについて、所要の支援を継続。

(6) 総務関連事業

【主な事業の強化・改善の内容】

- ① 業務管理の適切な推進、並びにスケジュール及び予算進捗の管理を強化。
- ② Jミルクの人事・労務の特性に適切に対処できるよう、職員の資質の向上。
- ③ 事業の継続的発展を実現するための業務推進体制を確立。
- ④ 内部事務作業等の改善。



栄養士会セミナー(佐賀県)



普及専門部会

平成26年度収支予算

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

1. 収入

会費及び拠出金については、25年度と同様の額及び単価（飲用牛乳等向け生乳1kg当たり5銭、加工向け生乳1kg当たり2銭）。

なお、災害等危機管理事業、生乳需要基盤強化対策特別事業に充当するための必要な額を、酪農乳業緊急対応基金から取り崩す。

2. 支出

26年度に見込まれる収入に見合った支出計画を基本に、引き続き、効率的、効果的な事業の実施を図る。

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1) 会費収入	2,160	2,170	△10
(2) 賦課金収入	463,429	480,340	△16,911
(3) 補助金収入	5,000	0	5,000
(4) 受託事業収入	2,050	0	2,050
(5) 業務手数料収入	0	0	0
(6) 雑収入	4,500	3,000	1,500
事業活動収入計	477,139	485,510	△8,371
2. 事業活動支出			
(1) 災害等危機管理対策事業支出計	61,200	43,800	17,400
(2) WDS2013支援特別事業費支出計	-	39,641	△39,641
(3) 生乳需要基盤強化対策事業費支出計	84,228	98,931	△14,703
(4) 生乳及び牛乳乳製品流通関連事業費支出計	89,755	109,644	△19,889
(5) 牛乳乳製品普及関連事業費支出計	256,790	295,523	△38,733
(6) 広報関連事業支出計	68,497	73,019	△4,522
(7) 管理費支出計	95,421	96,810	△1,389
事業活動収入計	655,891	757,368	△101,477
事業収支差額	△178,752	△271,858	93,106
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
(1) 特定資産取崩収入計	155,714	109,645	46,069
2. 投資活動支出			
(1) 特定資産取得支出計	4,616	4,777	△161
(2) 固定資産取得支出計	0	0	0
投資活動支出計	4,616	4,777	△161
投資活動収支差額	151,098	104,868	46,230
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	20,000	20,000	0
当期収支差額	△47,654	△186,990	139,336
前期繰越収支差額	69,773	237,392	△167,619
次期繰越収支差額	22,119	50,402	△28,283

(注) 1、収支予算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」に示された様式で作成

2、短期借入は予定しない

平成26年度アクションプラン (主要な事業スケジュール)

事業	実施アクション	上半期 (4~9月)	下半期 (10~3月)
総会 理事会	総会	定時総会(6月18日)	臨時総会(10月6日、3月5日)
	理事会	第1回理事会(5月28日)、第2回理事会(6月18日) 第3回理事会(9月25日)	第4回理事会(1月22日)、第5回理事会(2月18日)
生乳及び牛乳 乳製品流通安 定事業	生乳需給安定対策	中長期生産等の見通し(4月) 上期見通し(5月、7月)	第3四半期見通し(10月)、26年度見通し(12月)、 27年度見通し(1月)
	ポジティブリスト対応 生乳検査精度向上対策	認証(4月)、研修会(6月、7月)	定期的検査(11月、12月)、結果公表(12月) 認証(10月)、研修会(12月、1月)、連絡会(3月)
課題解決情報 提供事業	共通課題解決推進		セミナー(10月、11月、2月)
活動運営管理 事業	調査情報収集	調査(7月~9月)	報告・公表(10月)
	専門部会等組織活動	ポジ委員会(4月、7月、9月)、需給委員会(5月、 7月)、課題検討委員会(5月、8月)、専門部会、精 度管理委員会、認証特別委員会(9月)	需給委員会(10月、12月、1月)、課題検討委員会(11 月、2月)、専門部会、(1月)、生乳の安全安心全国 協議会、精度管理委員会、認証特別委員会(3月)
学校給食牛乳 飲用定着事業	学乳問題特別委員会	委員会(4月)	委員会(未定)
生乳需要基盤 強化対策事業	牛乳の日、牛乳月間の取組	ポスター、チラシ等のツール発送(4月)、小学生コン クール案内発信(5月、9月締め切り)、教材発送(5月)	コンクール最終審査、表彰(11月)、 コンクール表彰式、27年度計画立案(12月)
	店舗等での牛乳乳製品価値訴求活動 減塩運動支援、乳和食	店舗実験結果分析(4月)、実験結果の公表(6月~) 減塩サミット広島・佐賀(現地対応)(5月) セミナー(5月~3月)	栄養士等によるモデル展開(7月~3月) 一般生活者向け研修会、講習会への支援(通年)
乳の学術事業	乳の学術連合・共同事業	乳の学術連合運営委員会(5月)、牛乳の日記念フォー ラム(5月31日)、現地合同研究会(8月2・3日)	運営委員会(12月)
牛乳乳製品健康 科学情報事業	健康科学情報開発整備	学術研究(通年)、学術情報誌(4月、7月)	27年度学術研究公募(11月~12月)、研究選考委員会(2月)、 学術情報誌(10月、1月)
	健康科学会議活動	分科会・世話人会(4月~8月)、幹事会(9月)	幹事会(2月)、総会、健康科学フォーラム(3月)
乳の社会文化 価値向上事業	乳の社会文化価値情報 開発整備	学術研究(通年)、情報誌発行準備(6月~)	27年度学術研究公募(11月~12月)、研究選考委員 会、情報収集委員会(2月)
	乳の社会文化NT活動	IFCN派遣(5月)、社会科フォーラム(6月)、幹事会(9月)	幹事会、総会(3月)
牛乳食育事業	牛乳食育情報開発整備	学術研究、情報収集評価、乳幼児食育資料開発(通年)、 学術情報分科会(5月)、情報誌発行(8月)、海外調査(9月)	27年度学術研究公募(11月~12月)、研究審査会 (1月)、情報誌発行(2月)
	牛乳食育研究会活動	食育フォーラム(7月)、幹事会(9月)	研究推進会議(12月)、幹事会(2月)、総会(3月)
インフルエンサー 情報活動	医療関係者向け情報提供	老年医学会(6月)、栄養改善学会(8月)	高血圧学会(10月)、食事療法学会(3月)
	栄養関係者向け情報提供	研究会(6月、8月)、栄養士セミナー(全国5か所 7月~1月)	研究会(11月、2月)
	学校関係者向け情報提供	モデル校による実践・検証(通年) 牛乳食育研究会(全国5か所 9月~11月)	保育士・幼稚園教諭研修会
業界関係者向 け情報活動	業界向け情報開発整備	牛乳の日チラシ、ポスターのアップ(4月)、 業界向けツール配信(6月、8月)	業界向けツール配信(10月、12月、2月)
	業界向けセミナー等開催	エビデンスセミナー、マーケティングセミナー、 食育セミナー開催(通年)	
学校給食飲用牛乳定着事業	学乳安定供給推進	マル総承認取得に向けた助言、特定経費の助成(通年)	
活動運営管理 事業	戦略策定・ 調査等情報収集	ビックママ調査設計、実査、集計分析(4月~6月) 生活動向調査、設計(7月~10月)	生活動向調査(一次調査、二次調査、分析・報告、 戦略立案、外部公表(10月~1月))
	専門部会等組織活動	マーケ委員会(4月18日、7月、9月)、普及専門部会(9月)	マーケ委員会(12月、1月)、普及専門部会(2月)
	地域普及組織支援	地方組織の会合出席、イベント後援・参加(通年)	
広報関連事業	WEBサイト運営事業	HP・フェイスブック更新、運営(通年)	
	メディア広報対策	メディアミルクセミナー(6月、9月)、セミナーニュース レター制作発信(7月)、牛乳の月間全国のイベント情報収 集公表(5月)、報道基礎資料(制作・配布)(6月、9月)	メディアミルクセミナー(12月、3月)、セミナーニュース レター制作発信(10月、1月)、メディアツアー(10月)、メ ディア懇談会(12月)、報道基礎資料(制作・配布)(1月)
	業界向け広報対策	H25ブロック会議総括(4月)、Jミルクレポート発行(7月)	Jミルクレポート発行(10月、1月、3月)、ブロック会議(各地で開催)
総務関連	経理	会計監査(4月2日、5月13日)、監事監査(5月20日)、予算進捗精査(7月)	予算進捗精査(10月、1月)
	その他	内閣府へ公益目的支出計画実施報告書の提出(6月18日)	

Jミルクの活動: 12~2月の主な活動報告



平成25年12月1日から平成26年2月28日まで主な推進業務及び委員会等の開催

主な推進業務（12~2月）

【企画情報グループ関連】

- 災害等支援環境整備事業関連
 - ・「自給粗飼料放射性物質検査支援事業」の推進
今年度予算化した検体数(2,000 検体)を大幅に上回っている(5,000 検体以上)ことから、当初予算を念頭に置きつつ実態を勘案し、上限額を 4,850 万円と定めて執行
- 生乳需給安定対策事業関連
 - ・「平成 26 年度生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面する課題」公表(1/23)
- ポジティブリスト対応推進事業関連
 - ・平成 25 年度定期的検査(12/25、HP にて結果公表)
- 生乳検査精度向上対策事業関連
 - ・26 年 4 月 1 日認証申請、新規(1 件)及び更新(6 件)の審査
 - ・全国生乳検査技術者連絡会研修会(3/27)の準備
- 共通課題の検討関連
 - ・TPP 交渉動向の情報収集
 - ・26 年度畜産物価格並びに関連対策に関する情報収集

【普及グループ関連】

- 小売店頭等での価値訴求活動
 - ・「健康・食育ステーション」の店舗実験がサミット(成城店、府中西原店)で2/17~3/16の実施
 - ・2/25 メディア広報実施
- 牛乳ヒーロー&ヒロインコンテスト
 - ・12/26 表彰式を開催
 - ・優秀作品は 26 年度の啓発ツールに活用予定
- 乳の学術連合名で各研究機関に 26 年度委託研究を公募
 - ・牛乳乳製品健康科学会議では 52 件の応募。15 件を採択
 - ・牛乳食育研究会では 22 件の応募。8 件を採択
 - ・乳の社会文化ネットワークでは 28 件の応募。7 件を採択
- 栄養士向け雑誌「ミールタイム」に乳和食レシピの掲載を準備(26 年春号から 4 回)
- 医療関係者向け雑誌「医事新報」2/15 号に牛乳乳製品健康科学会議・主催の対談(ロコモ関連)掲載

主な推進業務（12~2月）

【総務広報グループ関連】

- メディア広報対策及びリリース発信
 - ・12 月 26 日 メディア懇談会
 - ・1 月 29 日 報道用基礎資料「高齢者の栄養と牛乳」の発信
 - ・2 月 10 日 平成26年度「乳の学術連合」学術研究の公募結果について
 - ・2 月 17 日 食品スーパーにおける新しい食育の取り組みについて
 - ・2 月 25 日 「食品スーパーにおける新しい食育の取り組みについて」記者発表

委員会・研究会・イベント等の開催（12月）

栄養士、食生活改善推進員向け減塩支援研修会 内容 「高血圧と減塩」「牛乳摂取とメタボ」に関するエビデンス解説、乳和食レシピのデモ又は調理実習	12 月 8 日
第 3 回生乳検査精度認証施設信頼性確保部門責任者研修会 内容 信頼性確保部門の役割の重要性、ケーススタディ、内部精度管理のチェックポイント	12 月 8 日
第3回マーケティング委員会 内容 ① WDS2013、JMC2013等の活動報告 ② 26年度の活動方針、牛乳の日・牛乳月間の方向性等の協議	12 月 12 日
第 4 回需給委員会 内容 ① 「25年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面する課題」について協議・検討	12 月 13 日
乳の社会文化ネットワーク 24 年度委託研究報告会	12 月 14 日
栄養士セミナー『牛乳を科学する』 ~増やそう Ca、減ら脂 Na さい Saga~ (佐賀) 内容 ① 基調講演 ② パネリスト講話 ③ パネルディスカッション	12 月 14 日
牛乳食育研究会研究推進会議 内容 ① 本年度の海外視察報告 ② 26年度活動計画	12 月 15 日

委員会・研究会・イベント等の開催（12月）

牛乳ヒーロー&ヒロインコンクール表彰式	12月26日
内容 ①応募11,625作品から選出された、ヒーロー・ヒロイン各最優秀賞を含む個人賞受賞の児童・保護者、団体賞受賞の学校関係者が出席	
メディア懇談会	12月26日
内容 Jミルク事業活動の理解促進と関係強化	



栄養士セミナー（佐賀県）

委員会・研究会・イベント等の開催（1月）

乳の学術連合運営委員会	1月7日
内容 26年度事業について	
第5回需給委員会	1月10日
内容 ①「26年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面する課題」の協議・検討	
牛乳食育研究会審査委員会	1月12日
内容 26年度研究公募、22件の応募から8件採択	
第2回需給取引専門部会	1月15日
内容 ①「26年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面する課題」の協議・検討 ② 本年度の事業推進状況、次年度の事業計画の基本的な考え方について ③ 生乳検査精度管理認証規程の改正（審査料値上げ）と、それに対応した費用の一部支援策	
第4回理事会	1月22日
内容 ①「26年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面する課題」について ② 25年度第3四半期までの事業推進状況 ③ 26年度事業の基本的考え方 ④ 諸規程の改定	
栄養士セミナー『牛乳を科学する』 ～カルシウム補給だけじゃない!!～（島根）	1月26日
内容 ① 基調講演 ② パネリスト講話 ③ パネルディスカッション	
第4回マーケティング委員会	1月30日
内容 26年度普及関連・広報関連事業計画の協議	



理事会風景

委員会・研究会・イベント等の開催（2月）

牛乳乳製品健康科学会議審査委員会	2月3日
内容 26年度研究公募、52件の応募から15件採択	
乳の社会文化ネットワーク審査委員会	2月4日
内容 26年度研究公募、28件の応募から7件採択	
第2回普及専門部会	2月6日
内容 ① 25年度事業の総括 ② 26年度普及関連・広報関連事業計画を協議	
学乳問題特別委員会	2月12日
内容 ① 25年度活動経過の確認 ② 26年度学校給食用牛乳供給事業の改訂について牛乳乳製品課より説明 ③ 26年度活動計画につき協議	
乳の社会文化ネットワーク情報収集委員会	2月13日
内容 情報誌の発行について	
栄養士向け情報開発研究会	2月17日
内容 「ライフステージ別食の課題とアドバイス」のデモ版完成に向けた準備	
第5回理事会	2月19日
内容 ① 平成25年度第2回臨時総会の招集について ② 平成26年度会費及び拠出金の額並びに納入方法について ③ 平成26年度事業計画及び収支予算書について	
牛乳乳製品健康科学会議 幹事会	2月20日
牛乳食育研究会 幹事会	2月22日
酪農乳業セミナー	2月26日
内容 ① 「国の酪農乳業への政策と今後のその方向性について」 ② 「平成26年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと今後の課題の詳細内容」 ③ 「牛乳乳製品に関する食生活動向調査2013」	



社会文化ネットワーク24年度委託研究報告会

平成26年度学術研究課題及び研究者が決定



大学、研究機関等に広く公募を行っていた学術研究の内容と研究者を選考

平成25年11月～12月に公募した、平成26年度「牛乳乳製品健康科学」「乳の社会文化」「食と教育」学術研究の研究者・研究課題は以下のように決定した。

分野	No	氏名	研究機関名	役職	研究課題名
牛乳乳製品健康科学	1	高田 和子	国立健康・栄養研究所栄養教育研究部	室長	高齢者における牛乳・乳製品摂取が1日の栄養摂取量、栄養状態に与える影響
	2	吉田 大悟	九州大学大学院医学研究院環境医学分野	学術研究員	地域高齢者における牛乳・乳製品の摂取が日常生活動作(ADL)障害に与える影響に関する疫学研究
	3	大塚 礼	独立行政法人国立長寿医療研究センターNILS-LSA 活用研究室	室長	地域在住高齢者における乳製品及び短鎖脂肪酸摂取、血清脂肪酸と認知機能に関する長期縦断疫学研究
	4	川上 浩	共立女子大学大学院	教授	牛乳・乳製品摂取による高齢者のロコモティブシンドローム予防に関する研究
	5	津川 尚子	神戸薬科大学衛生化学研究室	准教授	乳製品摂取有効性評価への応用を目指したビタミンDと心血管系疾患に関する基礎および栄養疫学研究
	6	東 徳洋	宇都宮大学	教授	乳脂肪球皮膜による動脈硬化ならびに慢性炎症の抑制効果
	7	森田 明美	甲子園大学栄養学部	教授	中高年における牛乳乳製品に対する食嗜好がメタボリックシンドローム・肥満におよぼす影響—脳機能解析を含む疫学コホート解析—
	8	水野 眞佐夫	北海道大学大学院教育学研究院	教授	高齢者における生涯スポーツに乳タンパク質飲料を組み合わせることが牛乳乳製品飲用習慣と心身の健康へ及ぼす効果
	9	下内 章人	独立行政法人国立循環器病研究センター研究心臓生理機能部	室長	生体ガスから見た牛乳乳製品の機能性評価に関する臨床的研究
	10	竹田 和由	順天堂大学医学部免疫学講座	准教授	NK活性を増強する乳成分の探索研究
	11	浦島 充佳	東京慈恵会医科大学	教授	ミルクを使った食物アレルギー予防効果に関するランダム化臨床試験 母乳栄養±アミノ酸 対 母乳栄養+少量ミルク
	12	丸山 光生	独立行政法人国立長寿医療研究センター研究所	老化機構研究部部長	免疫系の加齢変化における牛乳摂取効果に関する研究
	13	原田 哲夫	高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門	教授	朝食時牛乳摂取の精神衛生増進効果及び睡眠健康増進効果は幼児期に絶大なのか?
	14	田原 優	早稲田大学先進理工学部	助手	時間栄養学による乳タンパク質の新たな有効活用法の検証
	15	田中 秀樹	広島国際大学心理科学部臨床心理学科	教授	朝食時の牛乳・乳製品の摂取が、睡眠健康、抑うつ、不安軽減に与える効果の検討

分野	No	氏名	研究機関名	役職	研究課題名
乳の社会文化	1	石井 智美	酪農学園大学	教授	和食と乳の融合 ～中央アジアにおける乳と米の組み合わせから～
	2	小澤 壮行	日本獣医生命科学大学	教授	酪農体験部門の導入が収益性に及ぼす影響に関する実証的研究
	3	矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科	准教授	都府県における雇用型大規模酪農経営の発展条件についての調査研究
	4	上田 隆穂	学習院大学経済学部	教授	牛乳に関するネガティブ情報の伝染プロセス解明と抑制要因調査
	5	細野 ひろみ	東京大学大学院農学生命科学研究科	准教授	乳をめぐるリスクコミュニケーションについて
	6	東四柳 祥子	梅花女子大学食文化学部食文化学科	専任講師	牛乳・乳製品の家庭生活への定着・浸透に尽力した人びと～明治・大正期を中心に～
	7	佐々木 純一郎	弘前大学大学院	教授	「函館酪農公社」移動販売車に見る買物過疎地域への社会貢献的役割の研究

分野	No	氏名	研究機関名	役職	研究課題名
食 と 教 育	1	酒井 治子	東京家政学院大学現代生活学部	准教授	幼児の「乳」を活用した体験活動における生命尊重概念萌芽とその教育効果～栽培収穫体験との比較から～
	2	吉本 優子	帝塚山学院大学・人間科学部	准教授	こころとからだを育む共有体験型「牛乳」食育プログラムの開発
	3	大瀬良 知子	神戸女子大学大学院家政学研究科	博士課程	保育所・幼稚園における集団給食の意義の変遷と現代的意義の構築
	4	木村 純子	法政大学経営学部	教授	「乳」を取り込んだ食に関わる教育活動の実態と効果：ヨーロッパと日本の国際比較
	5	安達 瑞保	日本体育大学児童スポーツ研究学部	助教	小学生、中学生、高校生の地域性、給食形態、運動習慣に応じた食教育に必要な乳製品摂取状況の実態調査
	6	柴 英里	高知大学教育研究部人文科学系教育学部門	講師	行動変容ステージモデルに基づいた乳・乳製品の摂取を促す食教育プログラムの開発～青年期を対象として～
	7	大森 桂	山形大学地域教育文化学部	准教授	異世代交流を取入れた「New(乳)育」プログラムの開発
	8	小西 瑞穂	国立成育医療研究センター こころの診療部育児心理学科	研究員	牛乳アレルギーを持つ子どもの母親へのストレス介入プログラムの開発

今後のスケジュール 平成26年4月1日～平成26年6月30日までの会議・行事の開催予定を掲載致します。

	開催日	場 所	内 容
ブロック会議 名古屋	4月3日	愛知県	平成26年度のJミルク事業について 他
ブロック会議 京都	4月4日	京都府	平成26年度のJミルク事業について 他
ブロック会議 岡山	4月8日	岡山県	平成26年度のJミルク事業について 他
ブロック会議 福岡	4月9日	福岡県	平成26年度のJミルク事業について 他
平成26年度第1回マーケティング委員会	4月18日	Jミルク会議室	平成26年度普及事業計画について 他
第4回学乳問題特別委員会	4月22日	Jミルク会議室	直近の情報共有、政府要請案の検討 他
平成26年度第1回課題検討委員会	5月12日	Jミルク会議室	「酪農乳業政策大綱」の検証について 他
平成26年度第1回理事会	5月28日	Jミルク会議室	平成25年度事業報告及び決算
平成26年度第2回課題検討委員会	5月30日	Jミルク会議室	「酪農乳業政策大綱」の検証について 他
「牛乳の日」記念フォーラム	5月31日	東京都	日本人の食と乳（仮）
定時総会、第2回理事会	6月18日	東京都	平成25年度事業報告及び決算
乳の社会文化ネットワーク 平成25年度 学術研究発表会	6月21日	東京都	平成25年度の学術研究発表
平成26年度第1回栄養士向け情報開発研究会	6月30日	Jミルク会議室	「ライフステージ別食生活の手引」デモ版の評価確認 他

※上記は予定であり、日時・場所・講師等変更する場合があります。

編集 後記

- 今回の「乳の学術連合」の窓は、「乳の社会文化ネットワーク」代表幹事の和仁先生にご登場いただきました。「乳文化の日本化」という大きなテーマであり、食の方向性について示唆をいただきました。嗜好・習慣を含めた乳文化の議論、楽しみです！
- また、「睡眠と食」についても少し紹介しています。寝られなくてつらい経験は誰でもあるのではないのでしょうか。「春眠、暁を覚えず」そうなりたいものです・・・
- いよいよ新年度、新学期、新たなスタートのために「いただきます」・「ごちそうさん」 (T. I)



j-milkレポート vol.12 発行日/2014年4月

編集・発行/ 一般社団法人 Jミルク

住所:〒104-0045 東京都中央区築地4丁目7番1号 築地三井ビル5階

TEL.03-6226-6351 FAX.03-6226-6354

ホームページアドレス <http://www.j-milk.jp/>